

羅針盤 vol.105

校長 白岩博明

6月12日(金)から7月20日(月)まで、北中米のカナダ・メキシコ・アメリカの3か国共同で開催された「2026FIFA ワールドカップ」は、スペインの優勝で幕を閉じました。この間、寝不足を余儀なくされた方はたくさんおられたことでしょう。

「森保ジャパン」は、予選を1勝2分けで突破したものの、決勝トーナメント1回戦で強豪ブラジルに1-2で惜敗し、「世界一」を目標に掲げ、「最高の景色」を目指していましたが、残念な結果となりました。しかし、世界に示した日本サッカーの個の技術の高さと、礼節や協力などに基づくチームの和は、そう遠くない将来、更なる躍進を予見できるものとなりました。

私が生きている間(20年以内?)に、是非とも日本の世界制覇を見届けたいと思います。

(右写真は、長崎スタディツアーの一コマ。後述あり。)



端島(軍艦島)上陸ならず。

7月18日(土)、1学期終業式を行いました。今夏全国大会に出場するバトン部、器械体操部、ローイング、囲碁の壮行式を終え、私から以下の話をしました。

「今学期、上手くいったこと、反対に上手くいかなかったこと、どちらも丁寧に振り返っておこう。この夏休みは有効に時間を使い、ステップアップする自分にしよう。特に高校3年生は、勝負の夏休みです。頑張ってください。」

ところで、私から夏休みに向け、3つの宿題を出します。1つ目、『命を大切にすること』。危険な暑さもそうだけど、命、心を大切に過ごそう。親より先に命を失うほど辛いことはないからね。2つ目、『親への感謝の気持ちを示すこと』。ありがとうという言葉掛けでも構いません。必ず意思表示をすること。3つ目、『余裕を持った行動を心掛けること』。夏休みだからこそ、敢えて意図的な行動、何分前行動などに取り組んで欲しい。それを2学期に繋げていこう。以上、私からの話を終わります。」

余りにも簡潔で短い話だったのか、多くの生徒が「え!？」という表情だったのが印象的でした(いつもどれだけ話が長いのか、ということなのでしょうか...)。

さて、7月16日(木)・17日(金)の2日間、「長崎スタディツアー」を行いました。高校生の希望者163名が参加し、教員5名、添乗員2名が同行しました。私も生徒の様子を見守ることができました。

16日は、博多駅から長崎までのバス移動。昼食を「長崎スタジアムシティ」での自由食としましたが、サッカースタジアムとショッピング、グルメ空間が一体となった開放的なつくりでした。昼食後、「長崎平和公園」に行き、「長崎原爆資料館」の見学をしました。広島平和記念資料館と同様、8月9日の原爆投下によ

る被害の実相や当時の市民の暮らしを写真や遺品、映像などを通して伝える施設です。被爆によって溶け歪んだガラス瓶などを触ることもできました。

その後は、「ピースパークツアー」のプログラムへ。5~7人グループに分かれ、ボランティアの方から平和公園を案内していただき、被爆の実相や悲惨さ、平和の大切さについて学ぶことができました。”もえこつ”さんという女性ボランティアの方が誘導してくれたグループは、「防空壕」を見学後、上の写真のような体勢に。スマホから爆撃機が飛来する爆音? が流れてきました。「どうですか? 想像してください。当時、防空壕内で身を寄せ合い恐怖に慄きながらこの爆音を聴いていたはずですよ。実は、今でも世界にはこうした状況に置かれている人々がいるんですよ」。もえこつさんは「平和の像」の前で、ツアー最後の質問を生徒に問いました。「当時、自分が助けを求められたら、どうしますか?」と。



17日は、いよいよ端島(軍艦島)へ。島の外観が戦艦「土佐」に似ていることから軍艦島と呼ばれるようになったそうです。石炭が採掘され、1950~60年代は人口が約5200人に達し、世界有数の人口密度を誇り、日本初の高層アパートが建てられるなど都市機能が整っていました。1974年、炭鉱が閉山、住民全員が離島し、無人島に。2015年、世界遺産に登録されました。この日波が高く、上陸はできず、島の周遊のみとなりました。目の前なのに…、非常に残念でした。

平和について考えた、とても充実した2日間でした。